

OITA SOFTBALL DREAM PROJECT

since 2018

～5年目の報告～

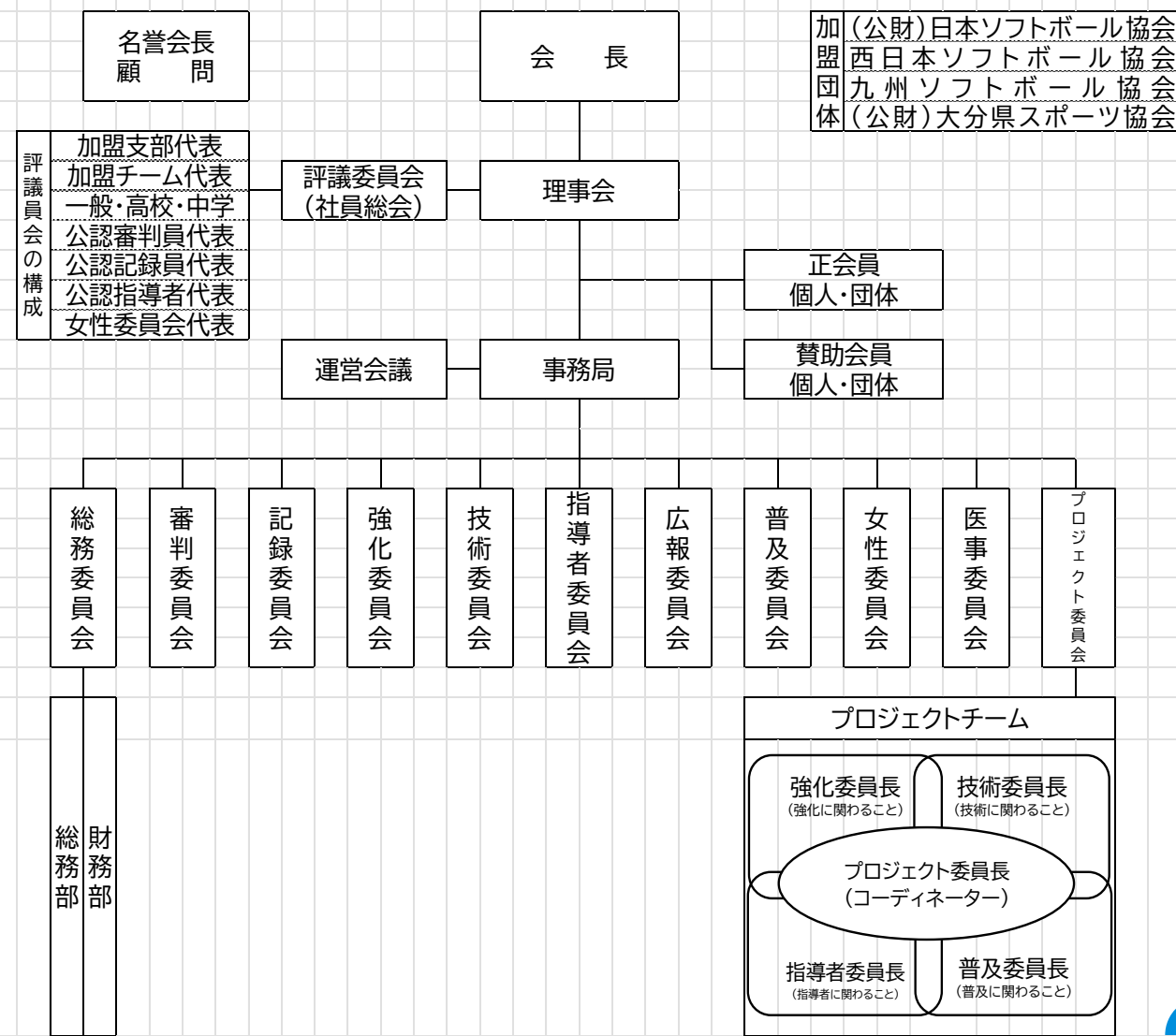
一般社団法人
大分県ソフトボール協会 プロジェクト委員会



プロジェクト委員会の位置づけ

- ・プロジェクト委員会を設置（2018年）
- ・プロジェクト委員長は、コーディネーターとして各委員会と連携
- ・プロジェクトチームを編成
- ・プロジェクト委員は、各委員会の委員長、副委員長で構成
- ・プロジェクト委員会が中心となって各事業を企画、運営

（一社）大分県ソフトボール協会組織図





概要

大分県ソフトボール協会は「若年層の普及と強化」を図るため、2018年からプロジェクト委員会を設置して、「大分ソフトボールドリームプロジェクト」として、組織的に普及と強化を図っています。

目的

- ① 小・中学生チームの選手・チームの増加につなげる。
- ② 技術力、競技力の向上、強化につなげる。
- ③ 指導者の有効活用ならびに育成・資質向上につなげる。

目標

ジュニア層の普及と強化を組織的に2028年まで
集中的に取り組めます（現在5年目経過）

- ① 少年団・中体連チームの減少に歯止めをかけ、
小中学生チームを増加させる。
- ② 県内の公認指導員を有効活用し、積極的に講習会
に派遣し指導技術および資質向上を図る。
- ③ 2028年までに日本代表選手（男女各カテゴリー）
を輩出する。
- ④ 2028年までに都道府県対抗大会（中学生）、
国体（少年・成年男女）で入賞を果たす。



大分ソフトボールドリームプロジェクト プロジェクト事業

5つの事業を柱に取り組んでいます

①ジュニア練習会

- ・ 県北、県中央・県南で開催し、県内くまなく普及できるよう実施しています。
- ・ ジュニアチーム（小学生、中学生）の指導者を中心に、優秀指導者から指導技術を学ぶ機会にもなっています。

②小中学生研修合宿

- ・ 主に夏と冬に合宿形式で行っています。（感染症感染拡大防止のため現在は休止中）時期に応じた様々な指導を行っています。親元を離れての生活経験、宿泊のマナー、栄養指導、メンタル指導等を実施し、技術だけでなく総合的に学ぶことができます。
- ・ 日本ソフトボール協会および日本スポーツ協会公認指導者が指導を行うので、県内指導者も様々な指導法に触れ、一貫指導体制の構築を図っています。

③小中学生サポート

- ・ 小中学生チームは、支部協会や中体連ソフトボール専門部を通し、中学校区を中心に体験会のサポートをしています。
- ・ チームの持続・創部支援として、支部協会と連携し情報提供等をしています。
- ・ 支部協会を通して、チームへ指導者の派遣および指導技術の伝達をしています。

④中学3年生ジャンプアップアカデミー

- ・ 中学3年生の高校入学までの練習環境を提供をしています。高校生、大学生チームとの交流や県中学生選抜の指導経験等、「する・みる・支える・知る」ことをトータル的に体験する機会を提供しています。

⑤県中学生選抜チーム強化サポート

- ・ 都道府県対抗大会に向けた県選抜チーム（男女）のチームマネジメントや技術指導をサポートしています。
- ・ 中学1年生選抜チームの編成、運営をサポートし、次年度に備えた活動支援をしています。

日本ソフトボール協会とも連携しています

大分県協会重点事業
OITA SOFTBALL
DREAM PROJECT
(県協会2018～)



連携

日本協会2030年ありたい姿
「支部活性化プロジェクト」
(日本協会2020～)

目的の共通点 小学生・中学生への普及活動（競技人口の増加）

大分ソフトボールドリムプロジェクト図

普及・指導者分野

高校・大学・企業
社会人クラブ

中学生・高校生

小学生・中学生

ジュニア練習会
★県北・県中・県南で開催 ★指導者育成

小中学生研修合宿
★一貫指導体制の構築 ★指導者育成

小中学生サポート
★校区体験会 ★持続・創部支援 ★指導支援

中学3年生サポート
★中3アカデミー

選抜チーム強化サポート

強化・技術分野

活躍

強化

育成

発掘

ふるさと選手・他競技と普及強化の連携

インターネットの活用による魅力発信

未就学児体験活動

教員授業研究会

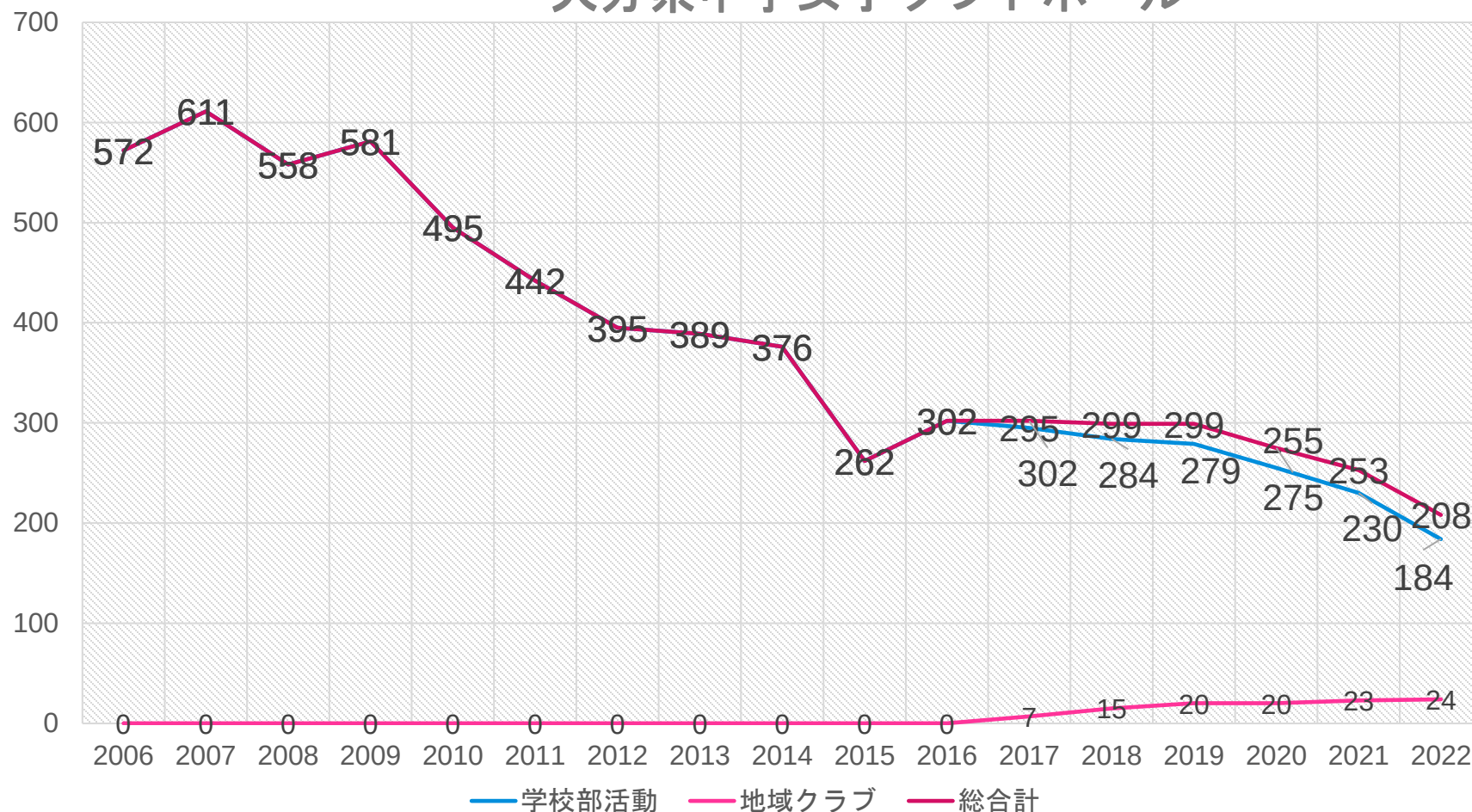
特別イベント

大分県中学生女子 の競技人口の推移

プロジェクト5年目が経過

- ・依然として減少傾向は続く
- ・直近3年間で約100名減少
- ・クラブチームは若干増えている
- ・中学校部活動チームの廃部が止まらない。

大分県中学女子ソフトボール

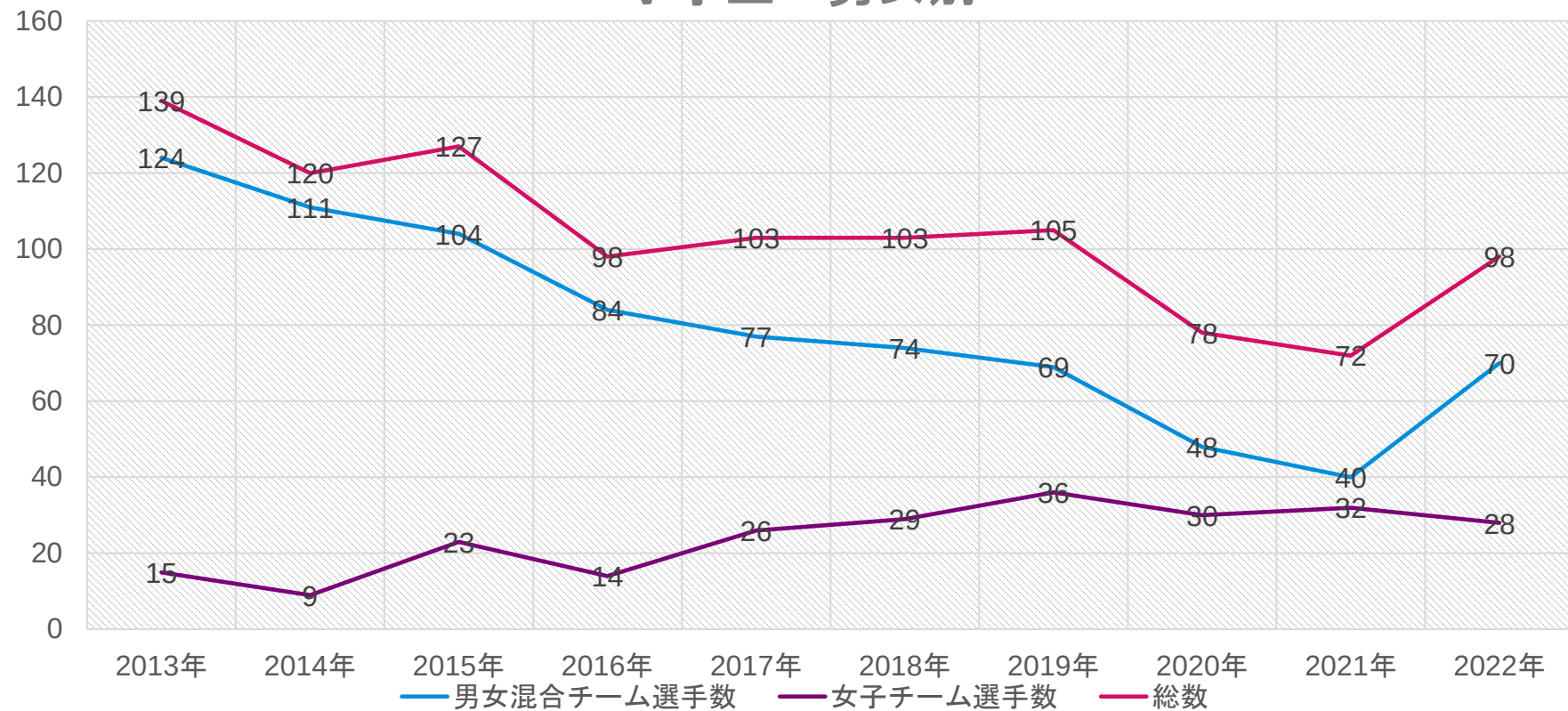


大分県小学生の 競技人口の推移

プロジェクト5年目が経過

- ・3年ぶりに100名程度になった
- ・男女混合チームの部員数増加
- ・もう少しでコロナ前の水準へ
- ・女子チームは30名程度で横ばい
- ・総数が増加へ

小学生 男女別



2023年 プロジェクト6年目に向けて

今こそ、当事者として課題をみつめ
この現実を受け止め、行動を起こす時
そして今していることは
やがて大分県のソフトボールにかえってくる
いをみない組織的な取組で、大分県のソフトボールが発展する
ときが来るのを楽しみに
きたいし、子どもたちがソフトボールを通じて元気に、明るく活動できる
未来へつなげていくのが我々協会員の使命
来たるべき日（2028年）まで
へんかを楽しみ、頑張っていきましょう



2023年の具体的な取組



継続活動

- ★ 5つの柱を粘り強く継続（2028年まで目標を継続）

継続活動の充実

- ★ 5つの柱を更に質的充実、発展

新規活動

- ★ 地域スポーツとして地域活性化に貢献する土台づくり

2023年の具体的な取組（継続活動の充実）

★ 5つの柱を更に質的充実・発展

- ・スタッフの役割分担（リーダーの人材育成・効率化）
- ・事業費の増額、日当の検討
- ・小学生、の中学生全チームへ、消耗品（ボール）の提供
- ・県の代表として上級大会に参加するチームの資金面での支援
- ・日本代表選考会（各カテゴリー）への積極的派遣



- ・協賛企業（スポンサー）の獲得
- ・ジュニアアスリート基金（仮）の造成

2023年の具体的な取組（新規活動）



今こそ、地域スポーツの核としてソフトボールを！（小・中学生チーム）



- ★ 地域スポーツの核として、地域活性化に貢献する土台づくり
 - ・支部協会と連携（持続・新規チーム創設に向けた協力）
 - ・チーム同士の絆を深める
 - ・カテゴリーを超えた、指導者交流、情報共有・交換、協議等



- ・（仮）大分県ソフトボールジュニア指導者協議会の設立、運営
小・中・高・(大学)指導者、支部協会の交流の場の提供



みなさんの力で
たくさん子どもたちの笑顔があふれ、夢があるソフトボール協会に

ありがとうございました

プロジェクト委員長	高橋 秀幸
プロジェクト副委員長	古本 拓巳
強化委員長	濱口 亮
強化副委員長	長澤 佳子
指導者委員長	甲斐 寿義
指導者副委員長	小西このみ
普及委員長	佐藤 政之
普及副委員長	二宮 孝毅

**(一社) 大分県ソフトボール協会
プロジェクト委員会**



2022年12月06日(火) 朝刊

元日本代表ら手ほどき

県内から小中高生100人

ソフトボール

県ソフトボール協会は11月27日、佐伯市総合運動公園で元日本女子リーグ選手を招きソフトボール教室「大分ドリームプロジェクト」を開いた。小中学生の競技人口の増加と技術の向上を目的に毎年実施。県内の小中高生約100人が参加した。



①投げ方を教える講師の神山さん（手前）②ゴロの捕球から送球までの体の使い方を指導する講師の藤崎さん（右）③佐伯市総合運動公園



講師は同リーグで打点王を獲得した藤崎由起子さん。投手として42連勝を挙げた山根佐由里さん、高打率をマークした神山みどりさん（以上トヨタ自動車、元日本代表の山中しほさん（NECプラットフォームズ）が務めた。

三浦正臣会長のあいさつの後、準備運動へ。キャッチボール開始前には神山さんが「ただの肩慣らしではなく実戦につながるよう意識して」と指示。内野練習では藤崎さんがノッカーを務め「腰を落として」など声をかけた。

投手練習は山中さんと山根さんが巡回。変化球の投げ方講座もあった。指導を受けた桑名陽向葵選手（大分東高2年）は「投げた球が左右にばらついてた。体の軸を真すぐに使うことを教えてもらった。すぐに試合で実践できそう」と目を輝かせた。次回は来年1月9日に日本文理大で実施する予定。（鉢上光樹）

大分合同新聞

ソフトボール
協会員が授業

【津久見】津久見市内小・中の体育の授業で、市ソフトボール協会（倉野幹也会長）の会員が児童・生徒に競技の指導をしている。専門性の高い人に授業をしてもらうことで、教員の指導力向上や児童の習熟につなげるのが目的。10月から始めた。市教委によると、外部の競技団体が授業をするのは、中学校の剣道に次いで同市で2例目。

「競技の面白さ知って」

県教委が配置する、運動指導に特化した市内の体育専科教員が同協会に依頼した。会員は市内の小・中6校にそれぞれ1〜2回、出向いて教える。

堅徳小（倉野幹輔校長、63人）では10月に2回にわたり、同協会の石塚裕理事（鶴原乃愛さん10）14年長（14が3〜5年生47人）に打ち方や守り方を指導した。捕球の際は両手で挟むように、などポイントを伝え、「キャッチボールでは相手を取りやすい位置に投げろ。思いやりも持つてほしい」と呼びかけた。

同月中旬には、市教育研究協議会体育部会に加入する教員を対象に講習会を開催。教員はバッティングティに置いたボールを打つ「ティボール」を通

じて指導法を学び、重松弘樹部長（63）＝第2中学校長＝は「伝え方や練習法などは授業で生かせる」と話した。石塚理事長は「少子化の影響で競技人口も減っている。授業が面白さを知ってもらえれば、競技の普及に結び付けば」と期待している。（渋谷優子）



児童に指導する市ソフトボール協会の石塚裕理事長

津久見・小中の体育で



捕球の練習をする堅徳小児童 津久見市